

セガ

ワークフローをSOAで構築 小さく始めて全社展開狙う

IT Japan Award 2008の特別賞にゲーム大手のセガが構築した請求・支払業務のワークフローシステムが入賞した。SOA(サービス指向アーキテクチャ)を本格的に採用したことが特徴だ。これにより、設定変更などの簡単な作業だけで承認フローの変更にすばやく対応できる。ユーザー部門の課題をいち早く解決できるようにした。



応募案件のプロフィール

システム名	請求・支払業務のワークフローシステム
稼働時期	2007年12月
協力ベンダー	ユーフィット、日本IBM
概要	SOA(サービス指向アーキテクチャ)の考え方を採り入れて、保守性の高い開発基盤を導入。請求・支払業務のワークフローシステムを開発した。

(写真：中村 宏)



ゲームソフト大手のセガは2007年12月、請求・支払業務のワークフローシステムの稼働を開始した。特徴は、SOA（サービス指向アーキテクチャ）に基づいて構築したこと。「管理部担当者」「管理部上長」など役職ごとに実施する承認処理を「ビジネスオブジェクト」として規定。それらを組み合わせることで、ワークフローを実現できるようにした。

こうすることで、承認フローの変更や承認する担当者の役職の変更などがあっても、新たにプログラミングすることなく、基本的にビジネスオブジェクトを組み合わせる順番や設定を変更するだけで対応が可能になる。まさにSOAの考え方だ。

承認フローはビジネスプロセスの記述言語であるBPELで記述した。BPELはXMLの表現方法にのっとって処理の流れを書き表す

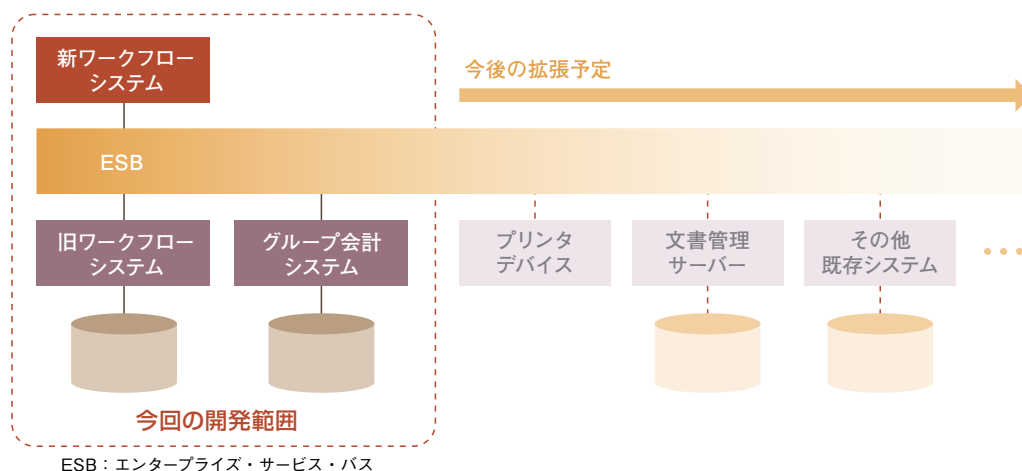
もの。BPELを用いた業務システムはまだ国内では珍しい。

BPELは新システムの実行環境であるIBM製のWebアプリケーションサーバー「WebSphere Process Server」で動作する。承認が必要な項目を各担当者の画面上に表示させるといった処理はJavaで記述したソフト部品が実行する。BPELが各ソフト部品を呼び出すことで、1つのアプリケーションとして動作する。ソフト部品は100個ほど用意した。

長期構想の下、小さく始める

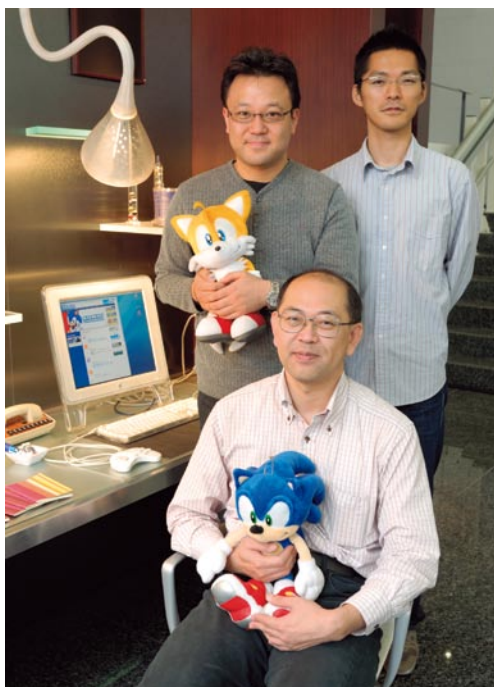
SOAを採用した目的は、中長期的にセガグループ内のシステムの柔軟性を高めたいという問題意識があったため。同社は変化が激しいゲーム業界を軸にさまざまなエンターテイ

● 図 セガは新ワークフローシステムを再構築すると同時に、今後のグループ内システム統合基盤を構築した



ンメント商品やサービスを提供している。新規事業を短期間に立ち上げたり、ビジネスプロセスの変革も多い。当然、情報システムも常にその変化の速さに付いていかなければならなかった。

そのためには、各システムを個別に開発していくのではなく、共通基盤とシステム個別の機能を分離して整備し、新たに必要になった機能だけを追加開発できるようにするSOAの考え方が有効だと考えていた。しかし、「SOA化のためだけでは予算は下りない」（コーポレート本部の松田雅幸情報システム部



手前から松田雅幸情報システム部長、本多秀行主任、大野利行チームマネージャー

長)のが現状だ。

そこで、再構築のニーズが高かったワークフローシステムの刷新を機にSOA基盤も同時に整備することにした。

従来は稟議書や立替経費精算などの申請手続き業務について、別のワークフローシステムを使用してきた。マイクロソフト製Webアプリケーションサーバー「Microsoft IIS」上にWebページ作成環境Active Server Pages (ASP)を利用して独自に開発したシステムである。

同システムは10年以上にわたって保守開発を続けてきたため、追加開発の生産性が低くなり、ユーザー部門からの新規要求に対して、3カ月以上かかることもあった。07年3月ころからは、日本版SOX法対策の観点からも、支払い業務についての証跡を確保するための新しいワークフローシステムを望む声が社内から上がっていた。

旧システムをサービスとして再利用

とはいえ、既存システムに作り込んだ承認フローは30ほどある。「ユーザーの満足度も高いため、捨てるのはもったいない」（松田情報システム部長）。そこで新システムでは、旧システムをそのまま利用することにした。旧ワークフローシステムの「1つの申請」を「1サービス」として定義し、新システムから必要に応じて呼び出せるようにした。松田部長は、「新システムのデザインを旧システムに合わ



せたので、ユーザーは新しい機能が追加された程度にしか感じなかったはずだ」と使い勝手に自信を見せる。

データベースも新・旧システムで同一のものを使う。新システムの実行環境である、WebSphere Process Serverが備えるESB(エンタープライズ・サービス・バス)機能を介して旧システムのデータベースに書き込むようにした。

旧システムで動作しているワークフローは徐々に新システムに移管していく方針だ。「問題なく動作しているものを無理に移行するの

ではなく、大きめの改変の必要が生じたときに乗せ替える」(松田情報システム部長)

今後は承認のためのワークフロー以外のアプリケーションも、この基盤上に統合していく。例えば、IBM製サーバー「System i5」で構築してある基幹システムの機能や文書管理サーバーのコンテンツを部分的にESBを介して利用できるようにさせる予定だ。

新ワークフローシステムとシステム基盤の開発作業はユーフィットが主に担当したほか、日本IBMが技術支援した。今回の開発予算は1億円程度とみられる。(矢口 竜太郎)



セガはゲームソフトの開発・販売以外にアミューズメント施設の運営も手がける

©SEGA

講評

「技術的に先進的な取り組みと評価できる。SOAという言葉は一般的になっているが、ここまで本格的な例は見たことがない。まずは小さく生んで大きく育てるという取り組み方針もよい」